

————— ● ————— ★ ————— ● —————

【神田】 山下 進 さん (72才)

————— ● ————— ★ ————— ● —————

祖父・山下久太郎は昭和20年6月26日、牛と田んぼに出ている、投下された爆弾のために62歳で亡くなりました。

私は昭和9年6月18日生まれの11歳、国民学校の5年生でした。

事の起こりは、その日、警戒警報が鳴ったので、牛を使って田んぼを掘り返していた祖父を母が迎えに行ったが、祖父は田のほうは安全だから帰らない、と言った事でした。

それから空襲が始まって爆弾が2発落ちました。

私は家の横穴掘りの防空壕に入っているすごい爆風を感じ、爆弾が落ちたのはどの辺りだろう、と思っているところへ、叔母が、牛だけ背中に土を背負って帰って来た、と知らせに飛んで来てくれました。

牛は祖父の妹の乾家から借りていたものだが、私は、これはえらいことだ、と思い、すぐに捜しに行ってみると、祖父がいた田んぼ付近には大きな穴が二つあいていました。

土手道が二つに切れたところに水が溜まっていたが、そこに祖父はいません。

私は穴のあいているところを見て回りました。

水の溜まっている爆弾の穴を熊手で掻いているのを見て、子供心にそんなところに祖父がいるのだろうか、と思いました。

また、石橋の崩れた石積みにはさまった学生帽が目について不思議に思いました。

捜しに来る人がどんどん増えてきたが、そのうちにもう見つからない、という雰囲気は漂い始めてきました。

祖父は、農業会の関係で九個荘村のために骨身を惜しまず働いていましたので、九個荘村の消防団が総動員で捜そうということになりました。

ちょうどその時、山下馬吉さんが「ここら辺りを掘ってみよう」と言って掘ろうとしました。

すると周りにいた子供たちが怖がって逃げていきました。